



Amihari  
visitor center

Vol.111

2023.11



ほんのり青りんごの匂いです

## 招かれざるカメムシ

amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori \* 網張の森の生き物たち \* amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori

### 網張で初確認した“マツヘリカメムシ”

全体的に赤みの少ない印象となった紅葉も見頃を過ぎ、小春日和の穏やかなある日の朝、網戸にいたマツヘリカメムシと出会いました。カメムシにしてはなかなか立派な体格でしたが、チラッと見た感じでは「会ったことがあるような、ないような…」。

背中白い四角模様がとても印象的で、いきものの気配が少ない時期の貴重な出会いということもあり、石垣に移動させて写真を撮ることにしました。まだそれほど気温が高くないためか動きはゆっくりしていますが、隙あらば石垣の隙間に逃げそうになり、何度か手前に戻しながらの写真撮影。じっくり見てもなかなか名前が出てこない…。後で調べてみると、この10日前に関係者から「鞍掛山麓でニューフェイスのカメムシを見つけました」と情報をいただいたカメムシとそっくりでした。更にその1年程前には盛岡市在住のパークボランティアからも「見知らぬカメムシがいました」との情報をいただき、この時に初めてこの外来のカメムシを知りました。その時はまだ遠い存在でしたが、あっという間に網張でも確認することとなりました。今後の更なる生息域の拡大が懸念されるものの、初めてのいきものとの出会いにはやはり心が弾み、指先から漂った青りんごの匂いを思い出す度に何とも割り切れない気持ちになる出会いとなりました。

What is  
“Matsuharikamemushi”?

#### 「外来のカメムシ」

ヘリカメムシ科  
体長：約 18～20mm  
分布：本州

原産地は北米。体は赤みがかった淡黄褐色～黒褐色。マツ類などに付いて幼虫・成虫とも新芽、球果、種子などから吸汁する。日本では2008年に東京都で最初に発見され、岩手県では2017年に盛岡市で初記録された。

(参考図書：「日本原色カメムシ図鑑」他)

amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori amiharinomori amiharinomori





第4回 網張の四季  
もりごよみ

いよいよ雪の季節の到来です。冬を越す生きものたちも思い思いに準備を進め、いよいよラストスパートをかけているところでしょうか。今冬の積雪量はどうなるのかな？

11月1日 10日 20日 30日 12月1日 10日 20日 31日

雪氷

年によって初雪 積雪 (0~8cm) 積雪 (0~20cm) 積雪 (3~30cm) 積雪 (10~30cm) 積雪 (25~50cm)

最低気温が氷点下の日が増え、次第に根雪へ



クリスマス寒波で積雪量増

確認

カラマツ黄葉 ブタナ ヤドリギやツルウメモドキ・コシアブラ結実 雪上にダケカンバの種子点在

雪上にウサギやテン・キツネ・ツキノワグマの足跡



コウモリの超音波 フクロウの鳴き声 アカゲラのドラミング



ミカドフキバッタ カメムシやテントウムシの仲間

マヒワやアトリの群れ

フユシャクやナミシャクの仲間

ウスタビガの繭 カレハガの幼虫

雪上にトビムシの仲間



モンキチョウ アカタテハ ウソ カラ類 エナガ キバシリ

11月に入り、朝方「雲海」を見かける事が多くなりました。標高の高い網張から、白い雲石盆地を眺めるのは一見の価値があります。寒暖差が大きい時期、放射冷却によって地面に近い空気が冷やされ、水蒸気が飽和し霧に変わるために起きる現象です。



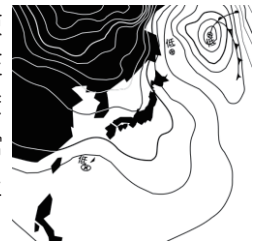
森の掲示板



例年、12月の中旬から下旬にかけて日本海側を中心に大雪に見舞われ、時に太平洋側でも積雪が見られます。

これは「クリスマス寒波」と呼ばれ、網張でもササを寝かせるような本格的な降雪の幕開けになります。

天気図を見ますと、大陸からシベリア気団がせり出してくるため寒気が流れ込み、西高東低の冬型の気圧配置になります。事前に除雪の準備を整えたいですね。



アミハリ・バース Vol. 53

マミチャジナイ

科名：ツグミ科  
全長：約21cm  
生態：旅鳥  
分布：全国  
(西日本では少数が越冬)

鳴き声

ツイー  
キョッキョッキョツ



K. Hirano '23

夏鳥のアカハラに似ていますが、体は一回り小さく目の上の白い眉班<sup>ひはん</sup>が見分けるポイントになります。名前の由来は「眉のある茶色のツグミ類」で「眉茶鷲」と表記します。鷲はシナイと読む古語で、ツグミやシロハラの事を指すのだとか。今シーズンはツグミの群れに交ざって、少数のマミチャジナイが飛来しナナカマドの実を食べて行きました。オスとメスの体色は似ていますが細かな部分で違いがあり、見慣れないと中々区別が付きません。大陸から9~10月頃に全国へ渡来しますが、多くはさらに南下し遠くベトナムやフィリピン等へ渡って越冬します。



# 「山小屋に憩う」(4)

## 不動平避難小屋の39年 阿部ひろあき

撮影：平成16年11月

左が不動平公衆便所、右奥が不動平避難小屋

### 二代目の不動平公衆便所

平成元年11月に不動平公衆便所が改築された(写真17)。建坪約13坪で従前規模。男性用大2・小3。女性用は和式2室で洋式1室。避難小屋付属施設としては大き過ぎる規模。初代の施設同様、不動平地域の公衆便所としての位置付けであったと思う。



(写真17) 不動平公衆便所東面

### 公衆便所の維持管理

不動平避難小屋管理(修理等)に注力していたこともあり、老朽化した初代の公衆便所には殆ど目を向ける余裕は無かった。しかし、新装なった施設は汚れも余計に目立つため、清掃管理に取り組まざるを得なくなった。設置者の県から要請があった訳ではない。小屋の近傍施設として、小屋利用者のために当然のごとく取り組んだ。その維持管理は、まさに「苦労の上積み」。小屋管理に入山してもトイレ掃除に時間が掛かった。登山シーズンには毎週の清掃が不可欠。これも熱心な仲間たちの協力で継続出来た(写真18)。課題は清掃用水の確保と便器洗浄、ハ工退治、積雪・残雪期間の利用確保対策等であった。



(写真18) トイレ清掃中

清掃用水の確保は、近くに水場がないためトイレ脇にブルーシートで雨水溜めを設置して利用。残雪期は周りの残雪を投入して融水を利用し(写真19)、夏季は雨水溜めの水が腐ったが、掃除には支障がなかった。その後、仲間たちの協力で、工事業者が残置した水タンクを設置し、屋根の水を利用できるようにした。



(写真19) 残雪を投入

便器についた汚れ(シミ)落としは難しかった。試行錯誤の結果、ある薬品の利用を思いついた。その希釈液の塗布により、見違えるほどきれいになった。

ハ工退治について、ハ工は地下浸透式の便槽から湧上

り、殺虫剤やハ工取りボン等ではとても間に合わない。朝には窓ガラスに大量のハ工が外に出ようとして群れていた。窓の外側には防虫網が張られている(写真20)。窓を開けると一斉に防虫網に群がる。昼過ぎの下山開始時に窓を閉めて閉じ込めると次週には全て死んでいる。まさに「一網打尽」。効果的だった。



(写真20) 防虫網等補修作業

### 冬期利用対策

小屋内部にはトイレが無く、春先の雪解け跡には小屋の周囲に使用済みの紙などが認められた。積雪・残雪期間中のトイレ利用を如何にして可能にするかが課題。ト



(写真21) 不動平公衆便所の冬期入口

イレ出入口は東側のため不動平を吹き抜ける風雪で雪が溜まり易く、春先は残雪で埋もれている。このため、吹き溜りが出来難く、残雪期も最初に現れる便所棟北側(山頂側)の女子ト



(写真22) 春先の除雪作業

### 〈余談①〉きれいなトイレの評価

平成10年頃のアウトドア情報誌に「全国の山小屋きれいなトイレ」として不動平公衆便所がベスト3に選定されたという情報が複数の登山者から寄せられた。誰がどのような基準で評価したのか不明だが、全国誌で紹介されたのは誇らしかった。予想外なご褒美だった。

### 〈余談②〉トイレに泊まった女性たち

ある時、小屋のノートに「小屋が満員だったので、3人で生まれて初めてトイレに泊まった」旨の記述あり、驚いた。掃除の際に女子トイレを見たら、コンクリート床に菓子の屑が散らばっていた。床が乾燥していたのが幸이었다ようだ。

(次号につづく)



### - 国立公園で楽しむ親子の自然体験 - 9/30「おいしいわき水を飲む！ 犬倉山登山」



網張展望リフトを2基乗り継ぎ、そこから登山開始。犬倉山山頂と水場の「犬倉冷水」を目指しました。4℃の冷たい湧き水は、岩手山の恵みの一つ。「美味しい！」と歓声が上がりました。総勢23名

(画像提供：岩手山地区パークボランティア)

### 10/22「紅葉の森さんぽ&たき火体験」



美しい紅葉を愛でながらゆっくりと森を歩き、キャンプ場でたき火を焚いて秋の日を楽しみました。「薬師の泉」で汲んだわき水で煎れたクロモシ茶や焼き芋も味わいました。「『炭火炊飯』行事と合わせてビジターセンター行事は2回目。以前より子どもが火を怖がらずに楽しめていた」参加者感想より。総勢8名

## インフォメーション

### 12/24(日)『クリスマスを新雪の網張の森で☆』 (スノーシューハイキング)

9:30~12:00 網張ビジターセンター集合

定員:20名 ※要事前予約

参加料:大人500円 小学生以下300円

(スノーシューレンタル別途100円)

### 1/13(土)『この時期しか歩けない！ 冬の鞍掛山麓探検スノーシューウォーク』

9:30~14:30 たきざわ自然情報センター集合

定員:20名 ※要事前予約

参加料:大人500円 小学生300円

(スノーシューレンタル別途100円)

共催:滝沢市・滝沢市山岳協会・

(一社)滝沢市観光物産協会

### 10/14「鞍掛山麓で キノコと親しくなろう」



秋晴れのハイキング日和。大きなヤマタマゴをはじめ多くの種類のキノコを触ったり匂いを確かめながら特徴などを教えて頂きました。キノコが森の循環に大きな役割を果たしているという講話もありました。総勢29名

### 11/5 森のクラフト体験 「小刀でスプーンを作ろう！」



網張の森で倒れていたミズキの材を使い、小刀と丸刀を使ってスプーン作りに挑戦。時間内に出来ますか？と心配の声もありましたが皆さんしっかりスプーンの形になりました。様々な材の違いも話題になりました。総勢7名

### 10/1~28

#### 秋の特別企画

#### 『僕とキノコの11年』



盛岡市の小学6年生の鈴木日向君は2歳の時に網張の森でキノコに興味を抱き、それ以後11年間観察を続けてきました。その11年に渡る観察・研究の成果を展示しました。小学生とは思えない専門的な内容に多くの関心が集まりました。

### 10/21~22

#### 「しずくいし産業まつり」ブース出展

雫石町運動公園にある町営体育館内のブースにて網張ビジターセンターも出展。網張の見どころやイベントの紹介、国立公園のPR等を行いました。



### ● ● ▲ 依頼行事 ▲ ● ● たくさんの依頼行事にも取り組みました！

#### ◆ 9/28 雫石町立雫石中学校 職場体験

雫石町立雫石中学校  
2年生3名参加



#### ◆ 10/20 火山砂防フォーラム 現地研修会 47名参加

#### ◆ 10/23 フレンド滝沢

「秋の遠足」  
滝沢市内  
中学生4名  
他3名参加



フレンド滝沢「秋の遠足」

#### ◆ 10/3・10/11 雫石中学校「職場体験」 岩手県市町村職員健康福利機構 「ほがらか健康ツアー」

総勢61名参加

#### ◆ 10/16 滝沢市政調査会・ 雫石町政務調査会合同研修会

52名参加

#### ◆ 10/17・10/18 グリーン・ツーリズム 仙台市立広瀬中学校2年生6名参加

#### ◆ 10/30 雫石児童館ふれあい自然塾 「秋探しの旅」 27名参加

#### ◆ 11/3 イクテ・ザ・ラストフロンティア 「違かなる森の記憶〜北の文化とブナ林」 9名参加

### - 現在開催中のビジターセンター企画展 -

11月1日(水)~12月28日(木)

#### - 鬼海 裕 写真展 -

### 「リス百態~君にはまりそう！」



リスは同じ仲間のムササビやモモンガと違い、地上において移動することや採餌することもあります。クルミ、フキ、キノコなどを食べる仕草や水場で水浴びする様子など全てのポーズがとても愛らしく目が離せません。たくましく生きるリスたちを10数年撮影してきました。愛らしい観察写真をお楽しみ下さい。 - 出展者の言葉より -

### モモンガのつぶやき

根開きの森が緑に包まれ、鳥たちのさえずりが春を告げていたのが、ついこの間のような気がします。7月1日の岩手山山開きでは、防虫ネットをかぶっていたにも関わらず、耳を何か所かブヨにかまれて腫れた事は、逆に遠い昔のように感じます。

忙しい日々ですが、季節に乗り遅れずに歩を進めたいものです。(K.H)



### 十和田八幡平国立公園 網張ビジターセンター

来館者数 ◆ 9月 1,691人 ◆ 10月 2,185人  
朝9時のビジターセンター平均気温 ◆ 9月 15.5℃ ◆ 10月 7℃

#### 発行 網張ビジターセンター運営協議会

〒020-0585 岩手県岩手郡雫石町長山小松倉 1-2 (網張温泉)

TEL 019-693-3777 FAX 019-693-3778

URL <http://amihari17.ec-net.jp>

E-mail [amihari@vanilla.ocn.ne.jp](mailto:amihari@vanilla.ocn.ne.jp)

開館 冬期 (11月から3月末まで) 9時~17時 毎週火曜日休館  
年末年始休館 (12月29日~1月3日)